

は じ め に

～ 仲尾台中学校からの発信 ～

21世紀も、既に3年目を迎え、と同時に学校教育も、新学習指導要領の下での教育が始まって、3年目を迎えています。この間、各学校では完全学校5日制の下、ゆとりの中で「特色ある教育」を展開し、生徒に「生きる力」を育成することを基本的なねらいとし、教育課程を編成し、運営改善を図って来られたかと思えます。

また、本市では、「新よこはま教育プラン」を策定し、「自ら成長していく、子どもの主体的な『学び』を扶けていくことが『生き方の教育』であること」、「『生き方の教育』を推進していくためには学校教育の充実とともに、『子どもは社会全体で育てる』という認識に立つ学校・家庭・地域社会の協働が不可欠であること」など・・・『生き方の教育』を推進していくために「ゆとり」「活力」「魅力」ある学校の実現を提起しました。

これらを受け、本校でも「横浜市教育課程編成の指針」に基づき、教育課程を編成し、『ゆとり・活力・魅力ある学校で、自らを律し、自立する生徒を育みます。』という学校教育目標の具現化に向けて、(1)確かな学力の向上 (2)豊かな体験・行事活動の充実 (3)地域・保護者とのネットワーク等の「特色ある学校づくり」を推進してまいりました。

この度、「学力向上フロンティアスクール」として、文部科学省の委嘱を受け、2年目を迎え、「個に応じた学力の向上」をテーマに、各教科から見た「学力」のとらえ、

少人数指導の導入と実際、個に応じた指導の内容・方法(習熟度別コース学習)と評価、成果と今後の課題等々で「中間・研究発表」をさせていただきます。各学校で参考になればと思っております。

発表に当たって、「少人数指導の導入の主なねらい」はどこにあるのかを確認しておきたいと思えます。

第一は、各教科等の基礎的・基本的内容の徹底を図るという点から、よりきめの細かい個に応じた指導の一層の充実。(習熟の程度の違いを生み出しやすい教科、個人差がその学習の過程で大きく生じやすい教科により強く求められている。)

第二は、生徒の個性をより積極的に生かし、伸ばしていこうという点、さらには生徒の興味関心や学ぶ意欲に支えられた主体的学習のより一層の推進。(それぞれの子どもの学びに即した、多様な指導方法や指導形態が求められている。)

第三は、生徒に対する生徒指導の面から、子どもと教師とのコミュニケーションをもつ機会となること。(少人数指導によって多様な指導方法や指導形態が展開されるということは、子どもの側から見れば、教師との親密なコミュニケーションをもつ機会となり、教師側から見れば、複数の目で子どもをより深く理解することになる。)

平成11年度のT・T導入から始まり、前畑井校長の先見性と本テーマに対する教職員の意欲的取組で実践が今日に至っております。上記の「ねらい」にどの程度近づけたか、ご意見等いただければ幸いです。

平成16年 1月30日

学校長 鈴木 吉光